

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児保育 I Child Care for Disabled I		1年	前期	火曜日・1～2時限(隔週)、3～4時限(隔週)
単位数	授業の形態	授業の性格		
1単位	演習	選択 (保育士養成課程必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種))		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
社会的養護、発達心理学Ⅰ、子どもの保健Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格・幼稚園教諭免許取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
大塚登	本館2階	火・水・木・金の9時から17時	授業中に指示します	
授業の概要				
ノーマライゼーションの理念の下、障害を持つ子どもの保育は障害児施設だけでなく、保育園・幼稚園でも一般化してきている。障害児保育の歴史、理念、様々な実践を学ぶことを通して、特別に支援を要する子どもたち一人一人を理解する目を養い、困り感に合った支援を考える。				
授業の到達目標				
①障害児を「～できない」というイメージで理解するのではなく、社会参加を権利として「～すればできる」という考え方ができる。これがおおもとであるが、そのために②障害を持つゆえに社会参加しづらい生きにくさ、言い換えれば自分勝手や努力の問題とは別の次元での困り感があることを理解できるようにする。③支援の工夫は子ども一人ひとり異なり、一人ひとりをよく理解する努力が必要であることを理解できるようにする。				
授業の方法				
講義により基本的情報を提供した後、各回の事例について自分なりの支援法を考えることにより目標到達を目指す。その際、障害を持つ子どもをより具体的に理解できるよう、DVDなど視聴覚教材を活用する。				
学習の成果				
①障害を持つ子どもも持たない子どもと同じ人間であるから特に違いは無いことに気づくことができる。 ②「障害児」だからと特別に構えるのではなく、本人の努力ではどうにもならない困り感に応じた支援を考えることが必要であると考えることができる。 ③物事の理解が少し遅かったり、理解の仕方が違っていたり、感覚障害があるなど由来する一人ひとりの困り感に寄り添った支援を考える基礎を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業計画・評価の方法などの説明) 障害児保育の理念と歴史			
第2回目	知的障害児の保育Ⅰ(概説と事例研究)・映像資料			
第3回目	知的障害児の保育Ⅱ(ダウン症についての概説と事例研究)・映像資料			
第4回目	自閉症スペクトラム障害児の保育Ⅰ(ウィングの3つ組:概説と事例研究)・映像資料			
第5回目	自閉症スペクトラム障害児の保育Ⅱ(感覚障害:概説と事例研究)・映像資料			
第6回目	落ち着きのない子どもの保育(ADHDの概説と事例研究)・映像資料			

第7回目	肢体不自由児の保育(概説と事例研究)・映像資料		
第8回目	Speech Science(聴覚言語障害の理解のために)		
第9回目	聴覚障害児の保育(概説と事例研究)・音声資料・文字資料		
第10回目	言語発達遅滞児の保育(概説と事例研究)		
第11回目	障害を持つ子の家庭Ⅰ(親の苦悩と喜び)・映像資料		
第12回目	障害を持つ子の家庭Ⅱ(「きょうだい」の理解)・映像資料		
第13回目	障害を持つ子の家庭Ⅲ(自閉症児を育てる母親の講話～親の苦悩と喜び～)・ゲストスピーカー		
第14回目	被虐待児の保育(概説・事例研究)・映像資料		
第15回目	試験と解説		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		14%	メモを取りながら授業に参加し、ディスカッションや指名時に自分の意見を発表できれば、1～14回目の授業まで各回1点を与えます。
レポート		10%	第13回授業「自閉症児を育てる母親の講話～親の苦悩と喜び～」の感想文
調査報告書			
小テスト		26%	毎時間末に穴埋め10題、論述1題の小テストを行います。穴埋め8題以上正答で1点、論述1点の2点×13回=26点。
中間・学期末試験		50%	毎回のレジュメと小テストの中より出題します。
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
毎時間資料を用意します。			
履修上の心得・ルール			
毎時間自分の考えをまとめる課題(事例研究)が出されますので、読み手によく伝わるよう意識して文章にまとめてください。 ガムなど飲食は禁止です。			